

「地域防災力向上支援プログラム」第1回県北地区研修会

と き：平成27年9月16日（水）

と ころ：福島県青少年会館

今後の災害に備え、地域の防災拠点である公民館等社会教育施設における防災体制の整備・充実を図るため、市町村社会教育関係職員、社会教育団体関係者、地域防災に関心のある町内会・婦人会関係者等を対象に第1回県北地区研修会を実施いたしました。

1 講 演



猪又氏の講演

「負けてたまるか！震災との戦い」

南三陸町社会福祉協議会 事務局長

猪又隆弘 氏

はじめに、東日本大震災での南三陸町の被害状況と現状、また災害ボランティアセンターの歩みについてお話をいただきました。そして、それらを通しての南三陸町の抱える課題と必要な支援を、大きく2点まとめていただきました。1つ目として、「いつまでも被災地、被災者では世間から忘れられてしまう。外部の人が訪れなくなる被災地ではないアピールポイントが必要。被災地を継続的に支援してもらうために『南三陸応援団』を組織した。またモアイによる町おこしも考えている。」2つ目は「町の人口が減少し、高齢化している。利便性が高く、介護保険料を下げることを目的とした福祉政策が必要。福祉総合施設『福祉モール』の実現が重要。」実際の被災とその後の復興を体験され、中心となって実行されているからこそその説得力のあるお話は災害への対応を考える貴重な講演となりました。

2 事例発表



田子氏の事例発表

「防災サマーキャンプ等公民館における防災事業の取組」

いわき市教育委員会 生涯学習課主事

田子真弓 氏

前半は「防災サマーキャンプ」についての具体的な映像や写真を使っての説明をいただきました。子どもたちを対象に、多くの関係者の協力で実施され、災害に対しての能力を子どもの頃から身につける重要性を実感することができました。

後半には、実際のプログラムの中の1つ「カードゲーム」を体験しました。

参加者の感想より

- ・ 災害は実際に起こらないと行動できないと実感。先日の大雨で避難準備が出て実際に防災グッズ、食料等を準備した。今日の話を生かして何かあったときは意識を持ち行動したい。
- ・ 工夫したプログラムが展開され参考になった。所属する団体でも活用できるプログラムがあった。他地区へも広げていくべきと思った。防災とのリンクという点で実質的である。